

試料・情報利用研究計画書(概要)						
審査委員会 受付番号	2020-2001-1	利用 形態	内部研究	利用する 試料・情報	対象: 三世代コホート調査参加者のうち、常位胎盤早期剥離に罹患妊婦 200名 、正常妊婦200名および対象中罹患妊婦・父・児トリオ 100組 、正常妊娠トリオ100組 全1,000人 試料: DNA(600人)、血漿(妊婦 400人) 情報: 基本情報、ゲノム配列情報、調査票情報、検査情報、家系情報	
主たる研究機関	東北メディカル・メガバンク機構			分担 研究機関	—	
研究題目	出生三世代コホートによる常位胎盤早期剥離の遺伝・環境要因の究明			研究期間	承認後～2023年3月	
実施責任者	菅原 準一	所属	東北メディカル・メガバンク機構		職位	教授
研究目的と意義	常位胎盤早期剥離とは、分娩前に胎盤が子宮から剥がれてしまう原因不明の疾患で、児の脳性麻痺、胎児死亡、母体死亡の原因疾患として、大きな問題となっています。本研究は、三世代コホートの試料・情報を用いた幅広い解析によって、疾患の発症を予測する式を構築します。具体的には、これまで報告された疾患に関連する遺伝子の変異が日本人の疾患の発症に関連するののか検証を行い、さらに新しい遺伝子変異の探索を行います。加えて、これらの変異情報に、血液中の代謝物情報や食事やストレスなどの環境因子を加えることで、発症前から常位胎盤早期剥離の予測を可能とする式の構築を目指します。					
研究計画概要	東北メディカル・メガバンク事業の三世代コホート調査に参加した方にご提供いただいた試料(DNA, 血漿)を用いて、常位胎盤早期剥離の発症に関連する遺伝子変異および血中代謝物を探索します。さらに既に論文で報告されている遺伝子変異についても妥当性の検証を行います。それらの結果得られた疾患関連遺伝子変異および代謝物情報に、調査票情報及び検査情報を加えて、疾患の発症予測式の構築を目指します。					
期待される成果	本研究の成果により疾患感受性遺伝子群の幅広い機能解析への応用が可能となる。これらによって、常位胎盤早期剥離の発症機序の一端を解明するとともに将来の個別化予防・治療への基礎的知見を得ることが期待できます。 基本計画に基づくバイオバンクリソースの利活用および得られた成果をバイオバンクに還元することによる情報の充実に大きく寄与することが期待されます。					
これまでの倫理 審査等の経過	2021年3月 東北メディカル・メガバンク機構倫理委員会承認					
倫理面、セキュリ ティー面への配慮	ヒトを対象とする医学系研究の倫理指針、ヒトゲノム・遺伝子解析研究倫理指針を遵守するほか、遺伝子情報、調査票情報、健康調査情報、家系情報を用いた解析はToMMo スーパーコンピュータ内でのみ実施し、データは外部には持ち出しません。					
その他特記事項	科学研究費助成事業					
* 公開日	令和3年6月16日					